私のお人形

宇宙外むぅ太朗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私のお人形

【Ｎコード】
Ｎ５７２０Ｖ

【作者名】
宇宙外むぅ太朗

【あらすじ】
少女は、人形を探していた。
大切な大切なお人形。
大きな洋館の中をひとり、少女は人形を探す。

パタパタパタ・・・・

少し力を加えれば、折れてしまいそうなほど、細く小さい足が忙しなく動く。

「まったく、どこに置き忘れたのかしら・・・・」
ハープを奏でるかのように、高雅な声がつぶやく。

「もうっ、どうしてこの屋敷は、こうも無駄に大きいのかしら。」
白磁のように白い肌を小さく膨らませ、周りを見渡した。

「んっしょ」
近くのいすによじ登り一息つく。彼女の小さな体には、この屋敷の何もかもが大きすぎるようだ。

彼女は、人形を探していた。
彼女が寝入った時には、すぐ側に有ったソレは、目を覚ますとどこにも見当たらなくなっていた。
彼女にとってソレは大した事ではなかったが。ほかにやる事もなく、誰もいなかったので、ただ盲目的に探していた。

「もうっ、こんなに家具が大きくちゃ、お茶も飲めやしないじゃない。」
彼女も彼女なり頑張っているのだが、テーブルや戸棚、ドアノブにすら手が届かず。遅々として成果を得られずにいた。
かすかな物音に、窓の外を見るが、鬱蒼とした緑、山々と空ばかりが映り、民家の一つも見えない。

「小鳥・・・」
ただただ茂る木々は、山に入るものを拒み。出ていこうとする者を阻む。そんな雰囲気を醸し出す山々に、彼女は逃げるかのごとく、人形を探し出した。

が。屋敷の大部分は、すでに探し終えていることに気付き。彼女は地団太を踏む。
「ああっ、もうっ！！」
小さな彼女の我慢は限界に来ていた。
怒りのままに、近くの柱時計を殴りつける。

ペシッ

「いっ痛っっっーーー」
まぁ、彼女が痛いだけだが。
親の敵を見るように、柱時計をにらみつけると。

ギィ・・カチャ・・・・・

「♪～♪～～～～♪～」

音楽が流れ出し七時を告げる。そして、自分が何時間も探し続けていたことに気づいた。

「むぅ、もう諦めようかしら。」
そう思いながら回りを見渡すと、一部屋だけ探していない部屋を見つけた。

「この部屋を最後にしましょ。」

運よくドアの開いていたその中には。
『リリス』と書かれた、二つの木箱があった。

「これは・・・・」
一つを開けると、中からは彼女ぴったりの服やティーセットが出てきた。
「まぁ♪」
それは、昔人形遊びをしていた道具で、いまだ新品同様の美しさで残っていた。
ソレを手に取り、嬉しそうに踊るリリスの裾が、もう一つの箱に引っかかり、地面に落ちた。

「っ！！」

彼女は、水晶の様な薄紫の瞳を見開いた。

「何コレ。」
其処には、彼女ぴったりの窪みが有り。こんな紙が貼り付けられていた。

『　？リリス？
　　悠想工房製　試作型仏蘭西人形風自動人形　』

「何なのコレっ！これじゃ私が人形みたいじゃ・・・」
彼女が後ずさると、背後にあった布が落ちて彼女を覆った。
「んっもう。」
布を取り去り後ろを覗き込むと、其処には大きな鏡があった。
「えっ」

鏡に映った細い足、白磁の肌、薄紫の瞳を持つ可憐なお人形。

「嗚呼嗚呼ああああぁっーーーー！！！」

壊れた玩具の様に頭を抱え暴れた。

「ああぁっあぁーーーあっあっあっぁーー！」

ギ、ギギィ・・・

次第に勢いが弱まっていく。

「そんなそんな・・」

彼女は、再び箱に手を伸ばそうとゆっくり手を伸ばした。

ギィ・・・

「ぁ・・・・」

彼女は、コトリと音を立て、その場に倒れた。

――

東北の山中にひっそりと、しかし悠然と佇む古城に、数人の若者が足を踏み入れた。

「アレ・・・・？」

亜麻色の髪を持つ小さな少女が、床に落ちていた人形を拾い上げる。
「何でここにあるんだ？」
背中のゼンマイを見ると、微かに戻りきっていない。
「エリスお前、そいつ置いてくるとき、完全にゼンマイ戻しとかなかっただろ？」
青年は、少女の頭上から人形を眺め、頭をポンポン叩く。
「む・・・・確かに・・」
自分の間違いを否定できず、具合の悪そうなところに・・
「エリスちゃん」
「うっかり？」
二つの同じ顔が、見つめ合い楽しそうに頷くと。
「「エリスちゃんうっかり♪エリスちゃんうっかり♪」」
ブロンドの髪を二つに縛った双子は、嬉しそうに囃し立て。鏡に映った様にそっくりな動作で、エリスの周りを走りだす。
「えーい、五月蝿い五月蝿い！お前らだって失敗するだろうが！！」
「「きゃははは♪エリスちゃんうっかり♪エリスちゃんうっかり♪」」
青年の腕に抱かれた人形は、薄紫の瞳に探し物を映し出していた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5720v/

私のお人形

2011年10月6日11時57分発行